

教育センター通信

第4号(通算 141 号)
令和8年7月24日

三条市教育委員会
教育センター発行

小中一貫教育
トップページ



ほ ど 火床の火の心を紡ぐ



令和8年6月15日・17日：一ノ木戸ボプラ学園
小6・中2合同理科授業「消化のはたらき」



ふるさと三条の「よさ」を語れる子どもに

教育センター 統括指導主事 武石 和仁

「武石さんが、先生としてこれまで受け持った子どもたちは、『三条のよさ』を語れますか？」

これは、一昨年、商工課主催の「三条みらい人材会議」で、ある東京の企業の方から問われた一言です。

正直、ハッとさせられると共に、何も返す言葉が見つかりませんでした。「まったくそんなことを考えてもいなかった」という悔しさのみが心に残ったことを今でも強く覚えています。

令和7年1月15日に、三条キャリア教育バンクが開設して1年半の年月が過ぎました。

「地域ぐるみで子どもを育む すべてはふるさととの未来のために」を合い言葉に、この趣旨に賛同し、御登録いただいた事業者は、今や100を超えます。また、昨年度は200を超えるマッチング（学校と事業者が連携して行う体験活動の適合）も生み出すことができ、今後、さらに登録数もマッチング数も伸びていくことは間違いありません。さらに、様々なメディアからも取り上げていただいたり、経済産業省からも注目していただいたりと、少しずつ知名度の向上も見られています。

もちろん、これらの取組や成果だけで、ふるさと三条の「よさ」を語れる子どもが育つわけではありません。今後も、子どもたちが、実社会とつながり、地域の多様な人との関わりを通じた体験活動を積み重ねることこそ、三条市に生まれ育った自分のアイデンティティとしての「よさ」を語れるようになると信じています。

三条市では、キャリア教育を「自分と実社会とのつながりを実感し、未来を切り拓く学び」と捉え直し、「よさ」を語れる、「強み」を生かせる、「共に」やり抜ける姿を目指す子ども像として定義しました。そして、この子ども像の具現のための1つの大切なツールが、三条キャリア教育バンクです。このキャリア教育バンクを通して、子どもたちが、地域の多様な職場で活躍し、仕事ぶりに加え生き方そのものが格好いい大人と出会い、協働体験等を通して、三条の「もの・こと」にたつぷりと触れることで、ふるさととの「よさ」を感じてほしい。そして、ふるさと三条を選び、未来を切り拓いてほしいと願います。

ただ、まだ登録数100程度であり、28校のニーズを満たすには十分ではありません。数ある三条の事業者の皆様から、ぜひ1者でも多くの御登録を心からお待ちしております。

各学園の 取組紹介

楽しく交流 楽しくつながる －卓球バレー体験・講演会(「絆」スクール集会)－

三条おおじま学園



みんなで卓球バレーを体験



波形様の御講演

7月6日(月)、大島中学校体育館を会場に「絆」スクール集会を開催しました。今年度は、新潟県卓球バレー協会の皆様を講師にお迎えし、社会福祉協議会の方々の協力をいただきながら、大島中学校の全校生徒と大島小学校・須頃小学校の5・6年生が一堂に会して、交流と学びの時間をもちました。

前半は、同協会の方々から教えていただきながら、全員で「卓球バレー」を体験しました。年齢や体格に関わらず誰もが一緒に楽しめるスポーツを通して、社会福祉や多様性を認めることについて考える良い機会となりました。後半は、同協会会長の波瀲 健治様から、「楽しく交流、楽しくつながる」を演題にご講演をいただきました。卓球バレーの普及活動におけるご経験を交えながら、スポーツを通じた人との関わり方や、相手を思いやるコミュニケーションの大切さについて、温かい雰囲気の中で教えていただきました。

実施後の振り返りでは、「自分たちの力で、『一人一人が居心地のいい三条おおじま学園』をつくろうとする気持ちが高まりましたか。」という評価項目で、9割以上の児童生徒が肯定的評価をしており、今後の生活や自分の行動への意欲が感じられる素晴らしい集会となりました。

さかえ学園

進んで行動・広がる交流！

－ 3校合同自然体験活動 －

6月4日(木)・5日(金)に実施した5年生対象の3校合同自然体験活動では、「自分で行動できる力」や「声を掛け合い協力する力」の育成をねらいとして、国立妙高青少年自然の家に宿泊し、オリエンテーリングや妙高アドベンチャーなどの合同活動に取り組みました。この取組を通じて、児童は学校の枠を超えた交流を積極的に行い、互いに声を掛け合って協力する姿が見られました。宿泊生活では自分の役割を意識し主体的に行動する児童が増え、自己肯定感の向上がうかがえます。また、自然と親しみながら妙高の魅力を实感し、その過程で「ふるさと栄」の良さも改めて再認識しました。多様な友達との関わりは、コミュニケーション力や協調性を高めるだけでなく、中学校進学に向けた安心感や仲間意識の醸成にもつながっています。さらに、3校の教職員が事前準備や指導内容を綿密に共有・分担したことで、教職員同士の連携も強化されました。他学園へは、合同活動ならではの交流促進や協力を要するプログラム導入、そして宿泊を伴う自然体験による達成感や集団生活の大切さの学びをぜひ参考にしていただきたいと思います。



仲間と野外オリエンテーリング



お気に入りの作品に(クラフト活動)

様々な場面での前後期生の交流

— 学園小学校修学旅行／防災教育授業・研修会 —

しただの郷学園

しただの郷学園では小中連携を円滑に進めるため、中学校入学前から温かい人間関係を築く取組を行っています。全小学校5・6年生合同の修学旅行もその一環で、今年度は6月25日（木）から一泊二日で佐渡へ出かけました。他校の児童と体験学習や宿舎での寝食を共にし、互いを知り友情を深めることで、中学校へのスムーズな進学へつなげています。また、佐渡の文化や自然に触れることで、ふるさと下田のよさを再認識する機会となっています。



全小学校合同での修学旅行 体験活動



防災教育授業「自分たちは何ができるか」

6月30日（火）には、防災教育授業研修会を実施しました。公開授業では「避難所で発生した困りごとに対して、自分たちはどう貢献できるか」を考え、地域の一員として中学生が果たす役割の大切さを学びました。

後半の職員研修では、群馬大学教授の金井 昌信 様を講師に迎え、被災状況への対応を学びました。小中の職員が一緒に考えることで、それぞれの立場や見方を共有することができ、考えが深まりました。金井様からは、防災教育を進める上での大切な視点、防災「で」学ぶ姿勢の大切さなど、貴重なご示唆をいただきました。

教育センター研修 ウォッチ！

外国語指導力向上研修

令和8年6月2日（小）・25日（中）・7月3日（小中）開催

重点教科である英語は、6月から7月にかけて、3つの研修会を行いました。6月2日（火）は市内勤務の3名の英語専科の先生方から講師を務めていただき、小学校の先生方を対象に研修会を行いました。英語専科の先生方の実践と、「明日から使えるアクティビティ」を参加者に紹介いただき、実際にアクティビティの一部を参加者で体験する一幕もありました。最後に参加者で情報交換を行いました。講師の先生からさらに詳しく聞く時間となり、今後の指導に活かす時間となりました。

6月25日（木）は中学校の先生方を対象として研修会を行いました。附属長岡中学校教諭 池田 紗貴子 様から講師として三条にお越しいただき、「生徒の主体的取組につながるコミュニケーション活動のしかけ」をテーマとして、池田様の実践を紹介いただき、魅力ある単元構成の大切さをお話いただきました。最後は参加者が学年担当に分かれ、意見を出し合って単元ゴールを考えるグループ演習を行い、今後の各校での授業に役立ちそうなアイデアが生まれました。

最終回の7月3日（金）には、小中全学校の英語担当から集まっていただき、「英語科における学園別の小中連携」について、具体的に取り組む内容について話し合う時間を設けました。学園内の全学校で共通して取り組む内容や、学校間を超えた児童生徒同士の連携、学園の公開授業に向けた打合せ等、学園の実態に合わせた話し合いが進みました。この3回の研修が、今後の充実した授業実践に生かされることを願っています。



道徳科授業研修

令和8年6月11日(木)開催

昨年度に引き続き、「道徳授業をどうつくるか」というテーマで、教科教育専門監の長岡市立脇野町小学校教諭 西脇 悠太 様を講師としてお招きし、道徳科における授業づくりについて講義いただきました。西脇様に学びたいと、2年続けて参加された方もおられました。

講義では、道徳的諸価値の中の「人間理解」が大切だと話され、葛藤や誘惑に負けてしまう人間の弱さについて、子どもたちが自分事として捉え、当事者（問題）意識をもって考えることが、道徳的価値に迫る学習につながることを学びました。また、御自身の板書をもとに、たくさんの実践を紹介していただきました。その中で、振り返りにおいて、子どもたちに道徳的価値の広がりや深まりの自覚をもたせることが大切だと教えていただきました。この振り返りは、教師の授業の指針にもなることを御示唆いただき、道徳の授業づくりの基本から具体的な実践までを学ぶことができた充実した研修会となりました。

■参会者の感想（一部抜粋）■

- 構造的な板書が印象に残りました。子どもたちの考えの違いが可視化されていて、そこから広がる子どもの考えや本音が一目で分かりました。様々な板書のアイディアを示していただき、今後の授業の参考にさせていただきます。
- 板書の紹介で、授業をどのように展開していくか参考になりました。自分事としてとらえさせる工夫として、道徳的でない行動をしている人物の気持ちを考え共感するという手法が参考になりました。工夫を重ねて実践していきたいと思いました。



CSディレクター研修①

令和8年6月19日(金)開催

三条市の「コミュニティ・スクール (=CS)」制度が発足して6年目を迎えました。

どの学園・学校でも、「当たり前」となっている反面、協議会自体の構成や熟議内容等に、ややもするとマンネリ化が生じてきている面も見られるようになってきました。

そこで、今回の研修では、「学校と地域をゆるやかにつなげるために、CS ディレクターやCS 委員が、『学校と地域のつなぎ役=窓口』となるには？」をテーマに、CS ディレクターや学園・学校運営協議会委員から24名もの御参加を得て、非常に熱を帯びた、まさに”熟議”がなされました。

参会者からは「他の学園の話が聞けてとても良かった。地域・学校・保護者のつながりづくりに、具体的な一歩を踏み出す機会としたい」「このような話し合いには校長先生方などにも参加してもらった方が良い」などの前向きな御意見もいただきました。

今年度第2回の研修会は、令和9年1月19日(火)に、学校担当者と運営協議会委員の方々を対象に実施したいと考えています。ぜひ、各学園でのCS ディレクターやCS 委員の「つなぎ役」としての具体から学び合える研修会としていきたいです。



熱心なグループ熟議の様子



グループ協議内容を発表し合う様子